

国際連携活動

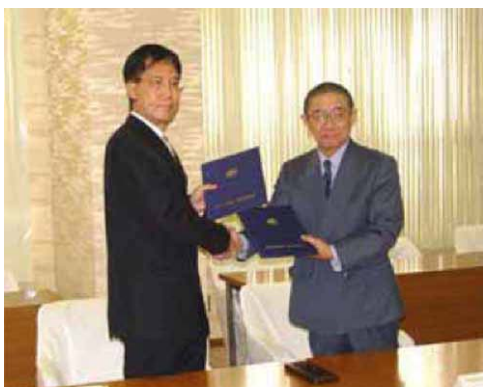
「熱帯病・感染症研究」と「放射線医療科学」分野での国際連携研究に関しては、長崎大学の実績とその評価は国立大学法人の中でも突出しています。これに加えて「海洋環境資源研究」においても環東シナ海海洋環境資源研究センターを核とした学内研究体制の整備と大学間学術交流協定締結による日中韓連携の枠組みの構築が急速に進行しつつあります。これらはいずれも地球規模の広がりを持つ21世紀の最重要課題であり、国境をこえた研究の円滑かつ効率的遂行こそが、その解決策を提示することができるといえます。

高雄海洋科技大学と学術交流協定締結

平成17年4月19日に高雄海洋科技大学との間で学術交流協定を締結しました。高雄海洋科技大学から総長以下5名の関係者が本学を訪問し、本学関係者の立会いのもと、齋藤学長と陳総長が協定書に署名を行い、学術交流協定が締結されました。

高雄海洋科技大学は、台湾で一、二位を争う水産都市高雄にあり、養殖漁業、遠洋及び沿岸漁業、船舶運行、さらに食品製造学に関する実践的な教育・研究活動を行っています。

今回の学術交流協定締結により、本学は国際的な水域である東シナ海を取り囲む主要な国々等の大学と協定を締結したことになり、東シナ海及びその周辺海域の環境と資源の研究が飛躍的に進むものと考えられます。今後は、高雄海洋科技大学との間で共同研究の実施、セミナー、シンポジウムの開催、学術情報の交換等を活発に行っていく予定です。調印式終了後には、互いの大学の概要説明が行われた後、今後の活動等について活発な意見交換が行われました。



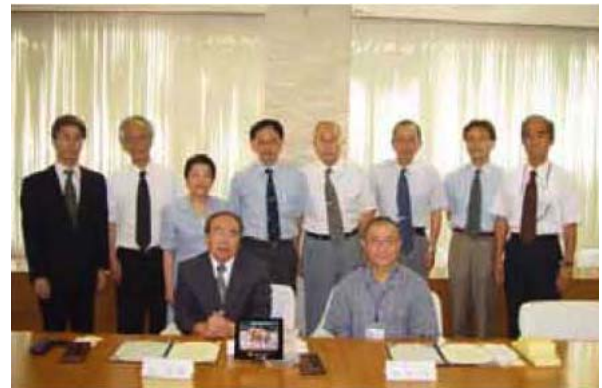
協定書交換後握手を交わす齋藤学長と陳総長(左)

台湾海洋大学と学術交流協定締結

平成17年8月9日に台湾海洋大学との間で学術交流協定を締結しました。台湾海洋大学から黄榮鑑学長以下3名の関係者が本学を訪問し、本学関係者立会いのもと、齋藤学長と黄学長が協定書に署名を行い、学術交流協定が締結されました。

台湾海洋大学は、海運学部、生命資源科学部の他、工学部、理学部、技術学部を擁する海洋・水産関連では台湾随一の総合大学であり、研究の高度化を積極的に推進し、海洋に関わる広範な学問分野で多大な研究成果を上げています。

今回の学術交流協定締結により、本学は国際的な水域である東シナ海及びその周辺海域の環境と資源の研究がますます進むものと考えられます。



台湾海洋大学と学術交流協定締結後の記念撮影

東シナ海を取り囲む国々等の大学との学術交流協定締結状況

締結年月日	相手国	相手機関
平成9年1月20日	中国	中国海洋大学
平成9年1月29日	韓国	釜慶大学校
平成14年12月20日	韓国	麗水大学校
平成15年1月17日	中国	大連水産学院
平成15年7月4日	韓国	仁荷大学校
平成16年2月11日	韓国	韓国海洋研究院
平成16年11月8日	台湾	淡江大学
平成17年3月7日	韓国	韓国国立水産科学院
平成17年4月19日	台湾	国立高雄海洋技術大学
平成17年8月9日	台湾	国立台湾大学

長崎大と韓国の海洋研究者

「干潟の現状と展望」シンポ

有明海環境変化でも報告

長崎大と韓国の海洋研究者らが研究成果を報告するシンポジウム「東アジア地域における干潟開発の現状と将来展望」が五日、長崎市内のホテルであった。



有明海の環境変化と影響について報告する中田水産学部長
—長崎市大黒町、ホテルニュー長崎

同大は水産学部や環シナ海海洋環境資源研究センターの研究者を中心に、「有明海の環境と生態系、漁業の変遷に関する調査研究」プロジェクトを組織。二〇〇一年度から五年間、文部科学省の助成を受け研究を進めている。シンポジウムは昨年の韓国に続いて開かれた。

中田英昭長崎大水産学部長は「有明海の環境変化と生物生産への影響」と題し報告。一九六〇—七〇年代、有明海の大規模干拓事業が進み、10—30%潮流が遅くなり、さらに諫早湾干拓事業で環境を悪化させた可能性があると指摘した。このほか同大と、共同研究を進める西海区水産研究所（長崎市多良良町）の研究者の計六人が報告した。

韓国側からは、長崎大と学术交流を結ぶ韓国海洋研究院、韓国水産科学院などから十四人の研究者が参加。韓国西岸の大規模干潟開発地のセマングムの現状を報告。諫早湾干拓事業の十倍以上の計画規模で、周辺の環境と生態系に影響を与え、社会問題化している。

中田学部長は「共通の環境特性を持つ二つの地域の情報を共有し、互いにフィードバックしたい。将来的には共同研究の計画を目指す」と話した。

長崎新聞 10月6日

「21世紀アジア社会環境国際学術会議」の開催

期日：2005年11月17日（木）、18日（金）
場所：長崎大学総合教育研究棟 多目的ホール
主催：長崎大学、淡江大学

環境科学部が中心となり、2005年11月17日（木）、18日（金）の2日間、総合教育研究棟2階多目的ホールにおいて、第1回アジア社会環境国際学術会議を開催しました。

これまで、台湾の淡江大学との姉妹提携を柱とした二国間の国際交流の会議でしたが、今回から台湾、韓国などによる東アジアにおける環境国際会議へ発展したものです。

最初に、齋藤学長の挨拶があり、前環境省地球環境審議官、現慶応義塾大学環境情報学部の浜中裕徳教授による特別講演をはじめ、アジア社会における環境科学、とりわけ環境問題に関する理系・文系の広領域にわたっての研究発表が行われました。発表は、発表論文集「The 21st Century Asian Conference on Environmental Issue (ACEI2005)」に従ってすべて英語で行われ、両日を通じて活発な討論が交わされました。海外からの参加者は台湾・韓国の研究者・大学院生、国内は東京・福岡及び本学から、述べ総数130名におよび新たな広がりをもった会議となりました。



開会宣言をする井手学部長



挨拶をする齋藤学長



The 21st Century Asian Conference on Environmental Issue (ACEI 2005)



(DEJIMA Map of Nagasaki, owned by Nagasaki University Economics Branch Library)

November 17-18, 2005
Multi-purpose Hall (2nd floor),
General Education and Research Building,
Nagasaki University

Organized by: Organizing Committee of ACEI 2005, International

Sponsored by: Nagasaki University
Tamkang University

大会開催の趣旨

本国際学術会議は、本学部と淡江大学（台湾）との共催により2003年秋に淡江大学で開催された文化と環境国際学術会議での合意、及び2004年本学と淡江大学との間で締結された国際学術交流協定を踏まえて開催されます。今回の会議は、日本と台湾にとどまらず、さらに韓国、中国、インドネシアなどアジア諸国からの出席を予定しており、一層の国際的広がりを得られることを期待しています。

本国際学術会議の特徴は、「環境」を基本的なテーマに据えています。それへの接近を自然科学や社会科学の実際的で政策的なアプローチのみではなく、哲学や文化という人間生活の根元的な基盤にまでおいて問いかけるところにあります。また、今回の国際学術会議は、2003年の前回の会議以上に環境工学や環境政策に重点をおいた報告が予定されており、さらに深く多様に、環境の世紀と言われる21世紀の最大の課題であるアジアの環境問題をめぐって活発な研究交流が行われることが期待されます。

プログラム

11月17日(木)
9:00-9:45 受付
9:45-10:00 開会

学長挨拶

井手 義則
環境科学部長

齋藤 寛
長崎大学長

10:00-12:00 第一部
一般講演 1-6
(発表15分、質疑5分)

13:30-15:30 第二部
一般講演 7-12
(発表15分、質疑5分)

16:00-17:30 基調講演
「地球環境変動におけるアジアの役割と挑戦」
浜中 裕徳
慶応大学・環境情報学部教授
環境省・地球環境基金前総裁

11月18日(金)
10:00-12:00 第三部
一般講演 13-18
(発表15分、質疑5分)

13:30-15:30 第四部
一般講演 19-18
(発表15分、質疑5分)

15:30-15:35 閉会

小野 隆弘
国際会議組織委員長